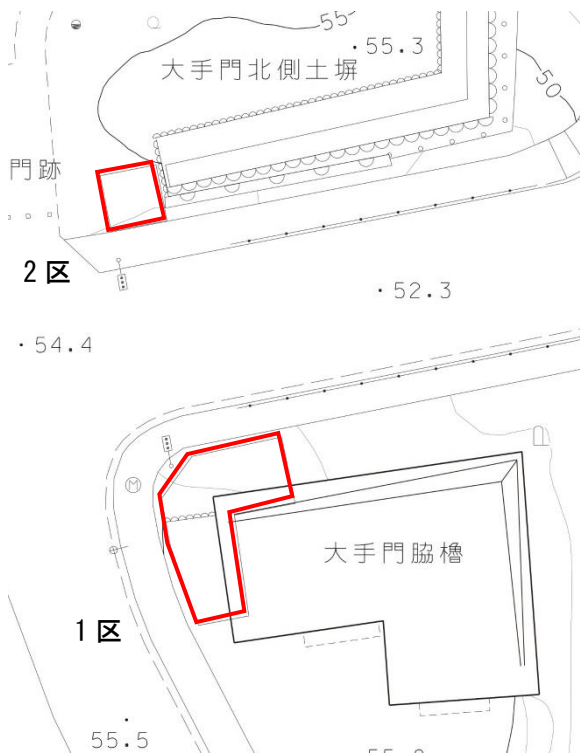


大手門および周辺発掘調査(第1次)について

今回の仙台城 now! vol. 12 では vol. 8 に引き続き、仙台城跡大手門跡および周辺発掘調査(第1次)の成果についてご紹介します。今年度は古写真や図面等をもとに、大手門が建てられていたと考えられる地点で調査を実施し、再建された大手門脇櫓の西側(1区)と、現存する大手門北側土塀の西側(2区)の2地点に調査区を設定しました。調査は令和5年9月~12月上旬まで行いました。



第1図 第1次調査の位置 (1/500)



第2図 大手門東面(正面) 全景

(『仙台城』仙台市教育委員会 1967 より)

調査成果

< 1区の調査成果(第4図) >

1区では、大手門焼失後に行われたと考えられる埋設管の設置等により、大きく攪乱を受けていることが確認されました。そうした攪乱が及ばなかった範囲で、大手門に関する遺構が確認されました。

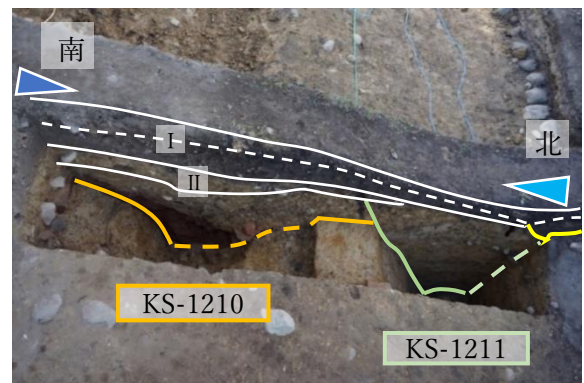
【大手門焼失後の攪乱】

[埋設管設置に伴う掘削 KS-1210, 1211]

現在の大手門脇櫓の北側では、東西方向に2本の埋設管が設置されており、急角度の深い掘削が行われていることが確認されました(KS-1210, 1211)。埋設管が埋められて、上面が均された後に歩道に伴う側溝が造られています(KS-1209)。(第3図)

[溝状の掘り込み KS-1216]

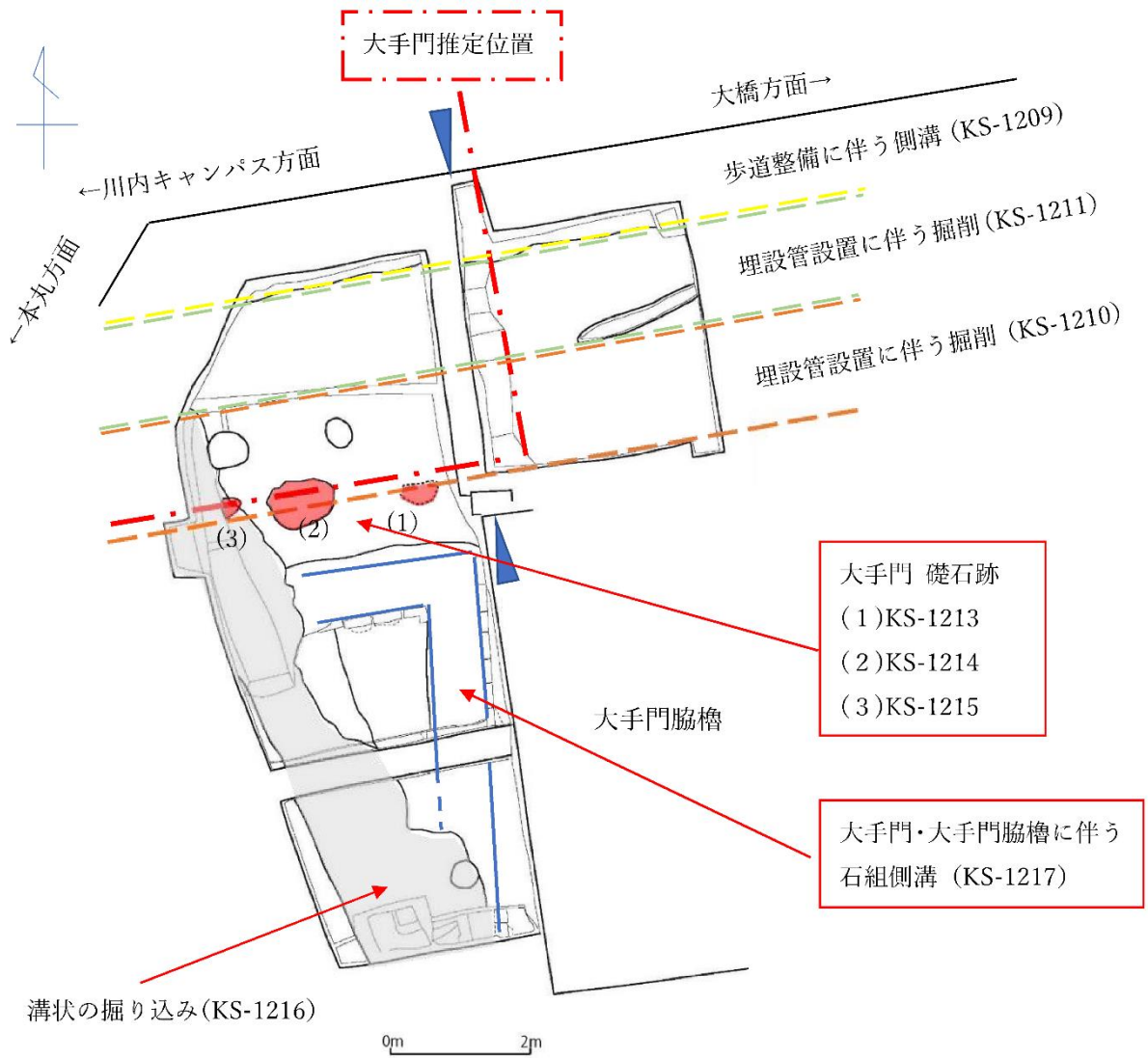
調査区の西半では、急角度の溝状の掘り込みが確認されました。底面は確認できていませんが、コンクリート片等が確認されることから、現代の改変であると考えられます(第4図)。



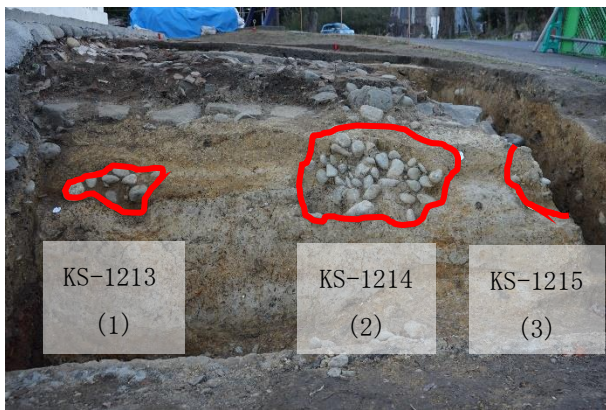
第3図 埋設管設置に伴う掘削(東から)



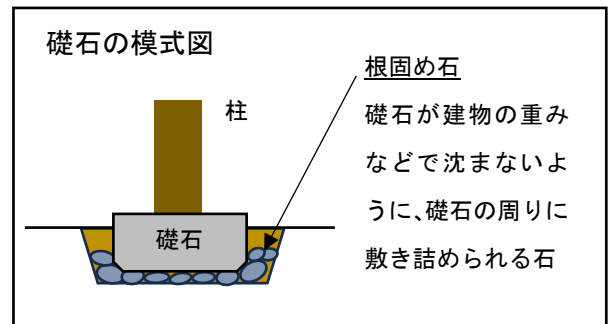
第4図 溝状の掘り込み KS-1216(北西から)



第5図 1区模式図 (1/100)



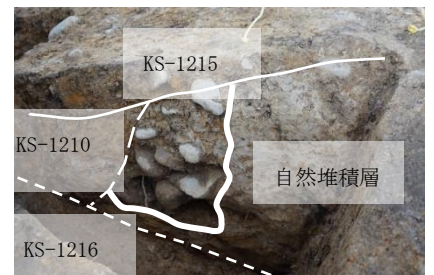
第6図 大手門礎石跡 (北西から)



第7図 大手門礎石跡 KS-1213
(北から)



第8図 大手門礎石跡 KS-1214
(北から)



第9図 大手門礎石跡 KS-1215
(西から)

【大手門に関する遺構】

〔大手門礎石跡 KS-1213～1215〕

調査区の北西側では礎石跡が3箇所確認されました。いずれも礎石は残っておらず、根固め石のみが確認されました。根固め石はそれぞれ円礫（～18cm程度）で構成されています。北側は埋設管設置（KS-1210）に伴い東西方向に削られ、西側については溝状の掘り込み（KS-1216）によって南北方向に削られています（第6～9図）。

〔大手門・大手門脇櫓に伴う石組側溝 KS-1217〕

大手門脇櫓（再建）の西では、石組側溝が検出されました。南北方向から東西方向に、やや鋭角に屈曲する様子が確認されました。石組側溝の堆積土からは、大手門・大手門脇櫓焼失時のものと考えられる焼土と赤色化した瓦が確認されました。古写真や図面から、大手門と大手門脇櫓の周囲には側溝が巡っていることが確認され、それら建物に伴う側溝として機能していたものと考えられます（第10図）。

側溝を構成する石材には、石を割る際のものと考えられる、電動工具によるものと推測される半円筒状の痕跡が確認されたため、今回検出の石組側溝の構築時期については明治以降であるものと考えられます（第11図）。



第10図 石組側溝 KS-1217 の検出状況（北か



第11図 石組側溝 電気工具による痕跡（白枠

<2区の調査成果（第13図）>

2区では歩道整備に伴う石列（KS-1212）のみが確認され、大手門跡に関連する遺構は確認されませんでした。大手門の北側でも、戦後の道路・歩道整備に伴い大きく削平されたことが窺えます。



第12図 2区遺構検出状況（西から）

まとめ 大手門の推定位置について

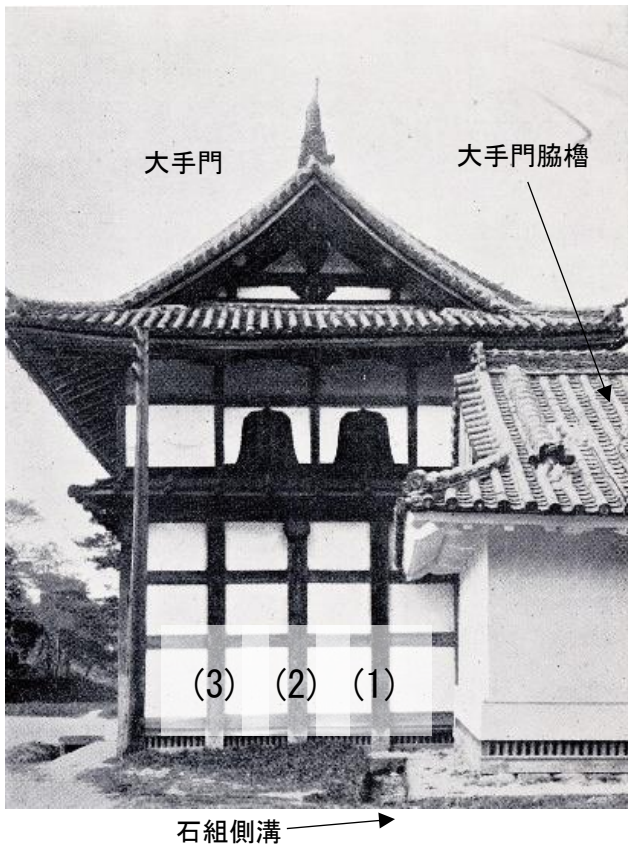
今回の調査で確認された礎石跡の位置をもとに、大手門跡の昭和5年の測量図（小倉強『仙台城の建築』）を合成し位置を推測しました（第14図）。

(1) 大手門南辺の位置

- ・大手門の南辺の礎石は5つとなっています。大手門側面の古写真を見ると、石組側溝の南北辺の延長線上に東から2番目の柱があることが見て取れます（第13図）。
- ・今回の調査区で確認した3つの礎石跡は石組側溝との位置関係から推測すると、東から2～4番目の礎石跡であると考えられます（第15図）。

(2) 大手門北辺の位置

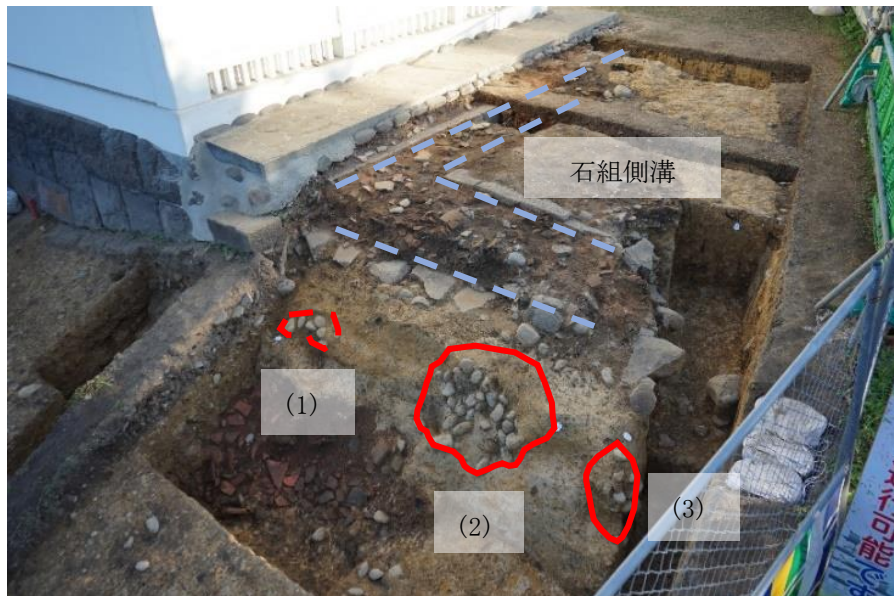
- ・2区は大手門北辺の推定位置付近あたりますが、1区に残っている礎石跡の最も低い箇所の標高が約54.000mであり、2区の南端の標高が53.300m付近となっていることから、大手門北端の礎石跡は削平を受けて失われているものと考えられます。



第13図 大手門南面全景

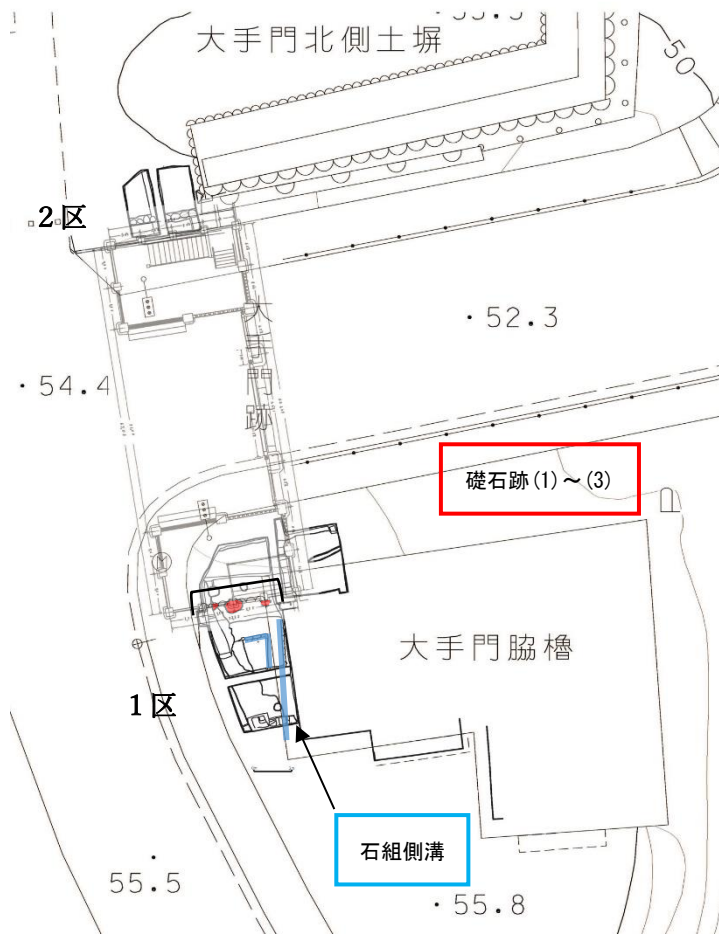
(『仙台城』仙台市教育委員会 1967 に加筆)

大手門南端の東西方向の礎石は5つとなっています。側面の古写真を見ると、石組側溝の南北辺の延長線上に東から2番目の柱があることが確認されます。



第15図 礎石跡と石組側溝の検出状況 (北西から)

((1)~(3)は第13図と対応)



第14図 大手門の推定位置(1/400)

(小倉強「仙台城の建築」図面を合成)

調査結果から推測すると、大手門は現在の道路を横断するように建てていたと考えられ、北端は歩道の境界付近になるものと考えられます。



発掘調査でも、石組側溝の南北方向の概ね延長線上に、(1)の礎石跡が位置することが確認されました。第13図と比較すると、それぞれ(1)~(3)同士が対応するものと推測されます。